

11/21

Thu

個人型 高野直実（御代田北小学校）

共同研究者 桐原 礼
（信州大学 准教授）

「教える」から「子どもたちと 共に学ぶ」授業への転換

子どもたちが生き生きと自分の力で追究していくために

○子どもたちの願いや思いが活かされることで、追究の原動力が高まっていくのではないか

○教師が上から指示を出したり教え込んだりする授業ではなく、“子どもたちと共に学ぶ”という意識に立った授業を行えば、子どもたちは主体的に活動できるのではないかと考え、7月に6年生で「ふるさと」を題材に授業を行いました。

まず、子どもたちが願いや思いをもつためには、その曲を好きになって工夫する必要性を感じて学習に取り組むことが重要だと考え、歌詞の作られた背景を紹介したり、長野オリンピック閉会式で世界中の人が集まり、「ふるさと」を歌っている映像を紹介したりしました。また、歌の授業の中で取り入れられているさまざまな学び方の中から、特に、「様々に試す、比較する、気付かせる」の3つを意識し、リズム打ちやリズム歌いを通して、どうしてそうなっているのか、音楽を形づくっている要素を変えたらどのように変化するのか、子どもの意見をもとに試す活動も行いました。

その後、一番大切に歌いたいところはどこかな、との問いかけに対し、すぐに歌詞を示して理由やどう歌いたいかを書き、「ふるさと」の曲のよさが伝わるようにグループ内で話し合いながら工夫していく姿をみた時、やはり曲に心を寄せられるようになると、思いがしっかりもて、子どもたちだけでどんどん追究をすすめられるということを実感しました。また、教師が寄り添うことは子どもたちの考えを広げていくことにつながることも強く感じました。

一方、思いが置いてきぼりになって工夫をすすめている場面もあり、思いを表現にどうつなげていくかについては課題です。

研究大会では、男子の多くが変声の過渡期を迎えているクラスで、願いや思いをもって生き生きと表現の追究ができるよう共に模索している姿を見ていただき、一緒に考えていただければと思います。



共同研究者 桐原先生から

御代田北小学校6年生は、高野先生との強い信頼関係があり、自然でとても良い歌声をきかせてくれます。当日の授業でも、生き生きとした子どもたちの姿、高野先生と子どもたちが共に学ぶ姿を楽しみにしております。



～日程～

- | | |
|---------------|-------------|
| ① 受付 | 12:45～13:05 |
| ② 開会式 | 13:15～13:25 |
| ③ 研究説明 | 13:25～13:40 |
| ④ 授業公開 | 13:45～14:30 |
| ⑤ 授業研究会 | 14:40～15:15 |
| ⑥ ワークショップ・講演会 | 15:20～16:20 |
| ⑦ 閉会式 | 16:20～16:30 |